

ローカルヒーロー通信 第2号

特集 ～ 福祉とヒーロー ～

『ローカルヒーロー通信』 創刊の辞

全国各地でヒーロー達が活動しています。「ローカルヒーロー」「オリジナルヒーロー」など名称も様々、活動目的も内容も規模も様々ですが、その多くは人々と触れ合うだけでなく、ステージの上で傷つき、命懸けで戦いながら自らの正義を示そうとします。他のキャラクターコンテンツには見られないその姿は、口先だけではない強力なメッセージ性を持って観る者に迫ります。またステージ上だけでなく、地域貢献、福祉、啓発活動などなど、「ヒーロー」は様々な分野で力を発揮できる可能性を持っているといえるでしょう。

一方で、ヒーローを運営する多くの団体は、様々な課題も抱えています。運営に行き詰まりを感じている方もおられますが、団体運営の情報を手に出来る機会が豊富とはいえません。また第三者からは「テレビ番組の模倣」「大人の怪獣ゴッコ」「税金の無駄」等と根拠のない雑言も聞かれます。ヒーロー達の実態、特に多大な社会貢献を、当事者とファン以外の第三者が知る機会が、多いとは言えないでしょう。

そんなヒーロー達の実態を知り、その力と魅力を広めたい。これが本誌の目的です。毎号テーマを決め、ヒーローの担い手の方々の声を聞いていきます。

引地 大介氏

『リハビリ専隊オーティンジャー』

はじめに

オーティンジャー誕生の発端は、私の長男が3歳の時に難病であるネフローゼ症候群を発症したことにさかのぼります。長男は長いベッド上生活を余儀なくされ、退屈の極みでした。父は1歳に満たない弟を抱えながら仕事をしなければならず、長男の入院する病院まで3時間と言う条件も重なりお見舞いにすらいけない状態でした。

しかし、父としての威厳を保つべく何かをしてあげたいという思いから、その時、長男がはまりまくっていた戦隊ヒーローに父がなれば、ヒーローを身近に感じられ子どもが喜ぶのではないかとの思い、オリジナルヒーローの作成に取り掛かったのです。

自分のお父さんがヒーローだったというシチュエーションはちょっとした自慢にもなるかとも思うし、絵的にも自分がかっこいいかなとも思いました（笑）結局、自分がやってみたかった夢を子どもの入院が後押しさせたといっても過言ではなかったのです。

第一号の制作費は自腹です。作り方は多くのインターネットサイトを参照しました。もともと工作は好きで、職業柄、自助具製作も行うことから道具は色々とお持ちでしたし、装具製作に当たり石膏を扱うこともありますので、比較的取り掛かりはスムーズでした。ただ、FRPだけは扱ったことがなかったので、だいぶ散らかって片づけが大変だったことを覚えています。インナーに使う全身タイツは高かったので、マラソンの時などに使われるびたっとした服を安売り700円で買い使っていました。

子どもは目論見どおり喜んでくれ、その後衣装は一時お蔵入りしました。一応の目的は達成されたわけです。

転機

それからしばらくして、子どもの通う保育園から相談が舞い込みました。発達障害が疑われる子どもの対応に悩んでいたそうです。たまたま私が小児に関わる作業療法士であることに園長が気づき相談を受けました。それから程なく、その園児を見に行きましたが、間違いなく発達障害があると言うことがわかり、専門的な支援が必要と判断しま

した。しかし、私の住む地域には治療や訓練をしてくれる外来施設がなく、近くでも2時間ほどの距離があり、診察を受けるだけでも予約が必要で半年以上待たなければならない事が現状です。

結局何もできないまま小学校へ上がってしまう事になる事が目に見えていました。きっとそのまま行けば、特別学級を勧められていたでしょう。私は特別学級を否定するわけではありませんが、よほど重度でない限りは普通の子供と一緒に過ごす環境で育った方が刺激も多く、発達も伸びると考えています。その分、ぶつかる壁も増えますが将来の幅は確実に広がります。

そこで、私自信が支援に乗り出すことにしたのです。私は熊本県作業療法士会天草ブロック長と言う立場でもあり、渉外活動を普及しなければならない立場でもありましたので、休日を利用して保育園へ出向き、支援を行う県作業療法士活動の一環として位置づけて実施することにしました。そうすることで、次年度からは予算を申請すればある程度、材料費や運営費・活動に関わる交通費などが県作業療法士会からもらえるという利点もあり、他の作業療法士も仲間に引き込めると考えたのです。

この時点では、オーティンジャーとして出向くのではなく、一療法士として保育園を訪れる予定でした。しかし、その発達障害を持った子どもの親も子どもの状態を受け入れることが出来ておらず、また保育園としても他の親御



さんから見られる偏見などが気になられ一療法士として堂々と入ることがすんなりとは行きませんでした。

ヒーローの誕生

そこで登場したのが 2011 年夏オーティンジャーです。一人の子どもをわざわざ保育園へ専門家が見に行くから、異様な雰囲気をかもしだしてしまうのです。だったら、保育園児全員を相手にしつつ、発達障害を抱える子も一緒にリハビリをすればよいという結論に達したのです。ちょうど、子どもの運動発達の遅れが指摘されていた時代でもあります。利害は一致しました。

また、定期的に療法士が保育園に出入りしているとなると、保育園の先生も保護者に対し「もし、子どものことが気になるのであれば療法士の先生に相談してみてもは？」と声をかけやすくなり、ついだからと保護者も相談しやすくなる環境が出来上がるだろうといったもくろみもありました。

ヒーローと運動

オーティンジャーの格好で保育園へ乗り込んだのはもちろん、せっかく作ったのだから子ども達の前に出たいという願望 8 割ですが、子ども達に運動内容や生活習慣の重要性をしっかり伝え、毎日、自発的に運動練習をやってもらう為には強い印象とメッセージ性を残すことが大切です。おじさんの言うことより、ヒーローの言うことの方が子どもは守ってくれそうにありませんか？

そんな理由でオーティンジャーに変身し、月に一回、1 時間。酸欠になりながら子ども達に発達を促す運動指導を実施していきました。この活動を通し、徐々にもくろみ通りの、本来の目的でもあった発達障害児の支援も保育園内で個別訓練が出来るようになり、保護者の理解も得、家庭内療育の体制も整いました。その甲斐あってか、2 年間開き持ったのち、そのおじさんは普通学級へ進学されました。その後も数名の気になるお子様の個別リハビリを保育園内で実施できるにいたりしました。

普及活動

この形は、発達障害児を支援する施設やサービスがない地域では特に有効な手段であると思ひ、オーティンジャー活動を行いながら、発達障害児の地域での支援への呼びかけにも力を入れていくようになっていきました。

県作業療法士会への活動報告をはじめに、各地域で行われる健康フォーラムへの参加、保育園での定期活動をきっかけに、噂が広がりちょくちょくと講演依頼や活動依頼が舞い込んでくるようになりました。

そうなるにつれて、とても一人では手が足りなくなり、賛同してくれる仲間を募るようにもなりました。そのうち一人また一人と参加してくれるようになり、ヒーローの種類も県から予算をもらって 1 年に 1 体程度の割合で増やしてきました。

＜リハビリ専隊 オーティンジャーメンバー＞

オーティンレイホーク 隊長（荅北町）

オーティン・A・マグマ（天草町）

オーティンハイヤー（牛深町）

オーティンフラワー（八代市花 桔梗をモチーフ）

オーティンソレイユ作成中（魚貫町夕日をモチーフ）

＜悪役＞

ローカー 悪の親玉（老化をモチーフ 声のみ出演）

ダラダラ～（子供をダラダラした生活へ引きずり込む）

喫猿 A. B 戦闘員（喫煙をモチーフ）

が現在のメンバーです。

発達障害児の問題が社会的に認知されるようになり、少



小学校運動指導



保育園親の学びプログラム

しずつですが活躍の場を増やしてきました。

今後の展望

もともとは、男の願望として「ヒーローになりたかった」から始まったオーティンジャーですが、今では夢見る子供への支援が大きな目的になっています。子供を取り囲む環境の変化は著しく、またその親も上手な子育てができるようになった時代ではなくなってきました。少子高齢化、核家族化等大きな社会問題のしわ寄せが子供に向かってきているようにも見えます。今、子供を育てるにあたって親も子育てを学ばなければならないような時代になっています。義務教育下でもそのような風潮があるようです。

しかし、私立保育園などは外部の物が入る事は意外と容易でしたが、小学校などの公立の物となると何かと制約が多く外部講師として入り込むことが困難でした。たまたま、息子が入っている小学校の校長とのコミュニケーションが取れる環境にありましたので、小学校内での活動が実現しましたが、通常はとても難しい課題なのです。

今後、小学校のように子供の生活環境下で直接リハビリ等の専門的な視点で支援が行えるような体制がとられる事を望みます。

「オーティンジャーは国をも動かします」そのうち（笑）

課題

あくまでも県作業療法協会の渉外活動の一環としての

活動の為、基本無報酬での活動になります。お心遣いはもらう事があります。製作費、活動費、交通費は県作業療法士協会から予算が出ますので個人的に支出が出る事はほとんどありませんが、人件費はボランティアです。

参加メンバーは各病院・施設からの有志ですので、休日を利用しての参加になり、なかなか休日を合わせる事も困難です。現在はそれぞれが高い意識を持って協力してくれていますが、継続していくとなるとそれなりの対価ぐらいは無ければならないかな？と考えています。そうすると、グッズ販売などで独自の収入を得ていかなければならないと考えています。

自己研鑽の機会にもなり、後輩を引きずり出すという形での継続はなんとか可能でしょうが、できれば進んで手を挙げてくれる仲間が増えることが理想です。いかに皆が気持ちよく、オーティンジャー活動を継続させられるかが大きな課題となっています。

ヒーローショーの方式

フリーソフトのライジオラインフリーというソフトを使って、いわゆるカンパケを作成しほぼぶっつけ本番でやっています。基本私がオリジナルストーリーを考え完パケの制作を行います。参加メンバーには台本と動作指示書をメールで配布し、周知しています。いかんせん、メンバーが集まるようにも各施設が遠く、集まりにくいことが現状です。音源はメールで配布できないので、ユーチューブにアップしてそれを聞いてもらっています。打ち合わせは本番当日のみです。だいたい10分程度の内容で作成しますので、なんとかなります。しかし、遊園地でのショーでは所要時間30分で、参加メンバー十数名、メンバーは熊本県随所に点在していましたので、私を中心に衣装なしの状態で一人数役をこなしながら動作指示ビデオを作成しそれを配布する事で対応しました。それも当日の打ち合わせのみでの対応でしたが、意外とうまくいきました。完パケのすごさが分かりますね。

ユーチューブ内で「オーティンジャー」と検索されると完パケの練習用音源をいくつか見つける事が出来ると思います。

最後に

多くのローカルヒーローがそれぞれの熱い思いを胸に

社会進出を果たしています。しかし、その根本エネルギーには子供の頃の夢を今も持ち続けた大人のエゴイズムも隠れているような気がします。

もちろんエゴイズムだけでは表舞台には立てません。承認欲求を満たすためにも自分たちの活動を正当化する必要があり、社会的貢献を隠れ蓑に使っていく必要があったのかもしれない。ただ、ネイガーやマブヤー等、その活動で多くの収入を得られる団体は少ないでしょう。ほとんどのローカルヒーローは薄利で運営されているのではないのでしょうか？

それでもやり続ける、それでも増え続けるローカルヒーローは社会にとって必要な歯車となってきているような気がします。

デジタルな時代にアナログなヒーロー、国から地域へと経済や社会の主体も移動しつつある時代です。希薄な地域社会、地域住民に一体感をもたらしてくれるかもしれません。

今、再び高度経済成長期のように夢を追い求める大人の力が必要な気がします。しかし、今度は多くの物を生産するのではなく、多くの心をまとめる力が必要です。今問題となっている超高齢化社会、社会保障問題、年金問題など結局は地域住民が助け合わなければ、なしえないところまで来ています。自分らさえよければよいといった感覚で生活できなくなるでしょう。持ちつ持たれつ、貧しくも古き良き時代に立ち戻らなければならない日が来るかもしれません。

そのような時、心のヒーローがそばにいたら頼もしいですね。

変身してもしなくても、自身のエゴであろうがあるまいが、社会をよくしようといった熱き魂を持った団体が存在する事が素晴らしいように思います。

(2016年9月6日 寄稿)

引地 大介(ひきち だいすけ)

1979年生。熊本県出身。2000年から『リハビリ専隊オーティンジャー』を運営。熊本県作業療法士会 天草ブロック長。事務局 TEL096 (389) 6780 HPは <http://www.kumamoto-ot.jp/>

佐々木 以織氏

『介護戦士新鮮タイガー』

最初のヒーロー体験

小学生の頃放送していた、『超光戦士シャンゼリオン』が好きでした。平成ライダーは『龍騎』から観ています。またプロレスに憧れて、プロデビューを目指して練習生をしていました。

ローカルヒーローを認識したきっかけは、広島のマープルカイザーさんです。色々と影響を受けていると思います。マープルカイザーさんのステージで、舞台上上がって紹介していただいたこともあります。

寸劇ユニット新鮮組と「新鮮タイガー」

介護福祉士になるための専門学校に行ったのですが、その時の同級生たちと「寸劇ユニット新鮮組」を作りました。6年前から活動しています。週末に、あちこちの介護施設やデイサービスにボランティアで出かけて、寸劇、カラオ



「新鮮組」の活動風景

ケ、ゲームなどをお年寄りの方々としています。

自分は三役ありまして、素顔の「伊織」、ヒーローの「新鮮タイガー」、ヒールの「影虎」を演じています。新鮮タイガーは、団体名の寸劇ユニット新鮮組と、当初使っていた既成のプロレスマスクから付けた名前です。ただあちこち出るようになって、著作権のある既製品ではちょっと、ということになり、一年前くらいからオリジナルのマスクを使うようになりました。プロ選手としてデビューした時に被ることを考えていたマスクです。お年寄りの方々と触れ合うため、素手が出たデザインになっています。新鮮タイガーの設定などはまだ細かく決めていません。「影虎」は悪役でして、大きな剣の武器を使うこともあります。

また誘っていただいて、他のローカルヒーローのショーに出演することもあります。その時は新鮮タイガーとしてソロ活動になります。口が出ているマスクですので、新鮮組で活動する時にはマイクを持って直接話しているのですが、ステージショーでは事前に録音した音声を送って、音源に入れてもらっています。合わせなければならぬので、苦労します。

お年寄り向けのヒーローショー

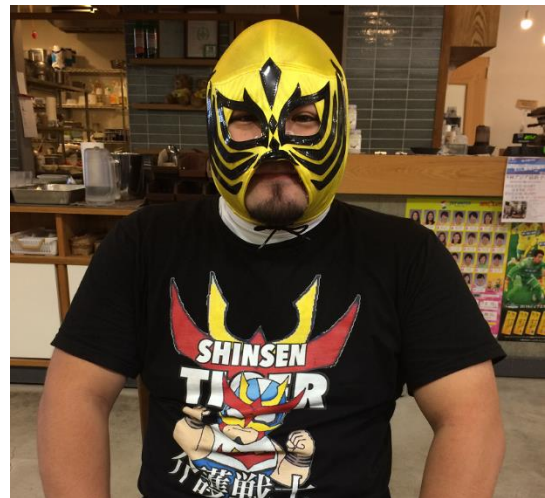
新鮮組では、介護施設などに出掛け、寸劇をやって、それからゲームをしたり、体操をしたりしています。寸劇は、例えば舞台上立って、カラオケで時代劇の主題歌を流しながら、曲の間奏で他のメンバーと殺陣をやったりします。それから、入場する時に自分がいつも行うプロレス技のアクションがあるんです。これがまたツボなんで、いつもうけて貰っています。体操はご老人向けの分かりやすいものになっています。

最初はこんなこととしてますって、こっちから声かけていたんですけど、そのうち市の広報誌に載せてもらえるようになって、そしたらうちに来て下さいって。活動は完全ボランティアです。県外で活動する時には交通費をいただくこともありますが、県内は大したことはありませんので。大変ではありますが、楽しんでやっています。でないと、相手も楽しんでもらえないんで。

多いときには月に2回くらい活動することもあります。ただインフルエンザの時期とかは受け入れもないので、そういう時期は充電期間に入ります。練習は定期的集まってしています。当日朝に打ち合わせて本番、ということもあります。大枠の流れを決めておいて、技だけ替えることもあります。

ショーは子供向け、お年寄り向けと特に分けてはいません。余り接し方は変わらないと思います。ヒーローがお年寄りに向けて有効かどうかは分かりませんが、今のところ拒否されたことはありません。マスクは印象には残ってくれるので、また来てね、と言ってもらったりしますので、ありといえども、だと思えます。子供とお年寄りはヒーローを受け入れてくれます。

(2016年10月1日 於 ショッピングセンターグローボ)



佐々木 以織 (ささき いおり)

1984年生。宮城県出身。2010年から『介護戦士新鮮タイガー』として活動。Twitterは https://twitter.com/iori_fd2

城西大学経営学部 石井龍太ゼミナール活動報告 (2016年11月～2016年12月)

城西大学経営学部 石井ゼミナールでは、「ローカルヒーロー」を通じた教育・研究活動を行っています。またオリジナルヒーロー「ユニベーターJ」(下左写真 2015年～)「リベレスパーJ」(下右写真 2016年～)を運営しています。

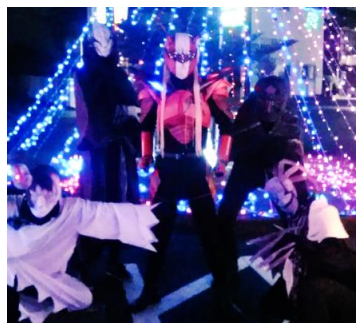
なお、2016年12月16日の「JUライトフェスティバル2016」を持って、「ユニベーターJ」は最終回を迎えました。2年間に渡る活動への応援、ありがとうございました。

「ユニベーターJ」出動履歴

2016年12月16日 JUライトフェスティバル2016 (城西大学坂戸キャンパス)

「リベレスパーJ」出動履歴

2016年11月27日 坂戸市イルミネーションまつり (埼玉県坂戸市)



ローカルヒーロー通信 第2号

2016年(平成28年)12月18日発行

編集 石井龍太

発行 城西大学経営学部石井龍太研究室

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1

ご意見、お問い合わせは ishiir@josai.ac.jp

※無断転載・複製を禁じます。

※バックナンバーは研究室HPにてご覧いただけます。 <http://www.josai.ac.jp/~ishiir/>